

盛岡市デジタル化によるまちづくり推進戦略 ワークショップ

開催結果

令和 4 年11月19日

1 実施概要及び参加者

- 11/19（土）に計11名の盛岡市民のみなさま（10代～70代と幅広い層の方々）にご参加いただきました
- 先進事例等を紹介した後、3つのグループに分かれ、テーマ（デジタルを活用した盛岡の未来の理想社会を考える）のもと、3ステップにてワークショップを実施しております

実施概要

【開催日時】

- 令和4年11月19日（土） 13:30～15:30

【開催場所】

- パルクアベニュー・カワトクcube-II地下1階
「盛岡という星でBASE STATION」

【主催】

- 盛岡市市長公室企画調整課都市戦略室
- イグニション・ポイント株式会社（戦略策定受託者）

【内容】

1. 盛岡市のデジタル化推進に向けた取組の現状やデジタル先進都市事例の紹介
2. ワークショップ（テーマ：デジタルを活用した盛岡の未来の理想社会を考える）
 - STEP1：“盛岡の現状と課題”を考えよう
 - STEP2：“目指すべき盛岡市の姿”を考えよう
 - STEP3：“デジタル推進で叶えてほしいサービスと期待したい施策”を考えよう

参加者

#	グループ	年齢	所属
1	グループ1	10代	専門学校生
2		10代	専門学校生
4		10代	専門学校生
5	グループ2	70代	一般会社員
6		-	福祉系協議会
7		-	商工会議所青年部
8		-	一般会社員
9	グループ3	50代	一般会社員
10		40代	一般会社員
11		-	教育系連合会
12		-	交通系会社員

2 ワークショップ実施結果

- 10～70代まで計11名の市民の方々に参加いただいたワークショップの結果として「盛岡市の良さ」を挙げる声が年代を問わず聞かれました
- また、抜本的な変革ではなく、現在の課題（交通や積雪、子育て・介護等）を解決しつつ、盛岡の良さを活かしてってほしいとの意見が多く聞かれました

総論

- 年代問わず、岩手山や川など豊かな自然を盛岡市の良いところとして挙げる声が多く、他にも食や祭りなどの文化に対しても良さを感じている
- 交通の不便さや娯楽施設の少なさなど地方に共通する課題とともに、東北地方ならではの雪に関する課題感が多い
- 盛岡の良さを活かして若者が残りたいと思うまち、そして子どもからお年寄りまですべての市民が安全に暮らせるまちを目指したらいののではないかという意見が挙がった

盛岡市の現状・課題

- 人・食・自然・文化の観点で盛岡の良さを感じている市民が多い
- 公共交通機関の不便さや若者の流出、娯楽施設の少なさなど全国の地方自治体に共通してみられるような課題に関してもグループ問わず意見があがった
- 降雪地ならではの課題感を持つ市民が多い
- 除雪そのものに関する悩みのほか、そこから派生した朝夕の渋滞や雪解けによる道路の劣化に困るという声や、冬場に遊べる施設が欲しいという声も聞かれた

目指すべき盛岡市の姿

- 労働や子育てなど複数分野の環境を整えることで「若者が残るまち」を目指すべき姿として挙げる声が多い
- 若者だけでなく高齢者にとっても便利で安全なまちにしたいなど、デジタル化の恩恵が幅広くいきわたってほしいという市民の思いが大きい
- 盛岡の魅力を市民が感じながら暮らすことはもちろん、その良さを市外にも発信できるまちを目指したいという、長所をいかしたブランディングや集客に積極的な意見もあがった

叶えてほしいサービス・期待したい施策

- 学生目線では、移動手段の要となるバスや電車の利便性を高めてほしいという声や電子決済サービス導入店舗の拡大を期待する意見があがった
- 社会人目線では、特に若者の雇用拡大や、自身の働き方の刷新を望むようなアイデアが比較的多くみられた
- 家族目線では、子どもの教育や医療サービスの充実、お年寄りの見守りなどに関してデジタル推進を期待できるのではないかと意見があがった

3 当日写真

グループ1



グループ2



グループ3



ワークショップの様子

